

## (6) 北 陸



北陸地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はやや弱含んでいる。
- ・ 個人消費は弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

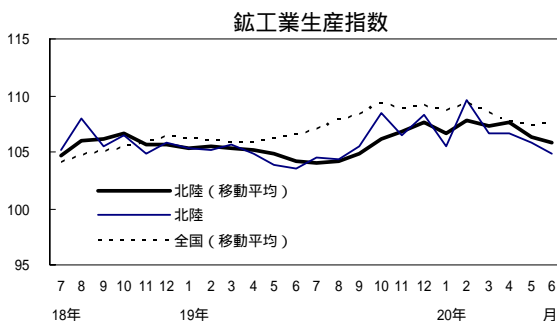
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年5月）	今回（平成20年8月）	
景況判断	回復の動きに足踏み	やや弱含み	
鉱工業生産	おおむね横ばい	やや弱含み	
個人消費	やや弱含み	弱含み	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産はやや弱含んでいる。

一般機械は、半導体製造装置がメーカー企業の設備投資減少により減産傾向にあることや、繊維機械が中国からの受注減の影響で低迷していることから、減少している。電子部品・デバイス、中国、アジア地域での在庫調整が終わり、高水準で推移している。化学は、後発医薬品を中心に医薬品が好調であり、堅調に推移している。金属製品は、建築着工の低迷や改正建築基準法の影響が残っていることでビル用アルミサッシが低調であるものの、おおむね横ばいで推移している。繊維は、化学合成繊維織物が衣料品低迷と原油高の影響により低調であるものの、自動車向け等の非衣料系繊維は堅調であり、おおむね横ばいで推移している。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。  
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

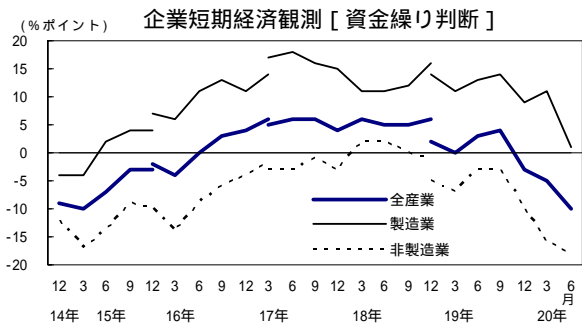
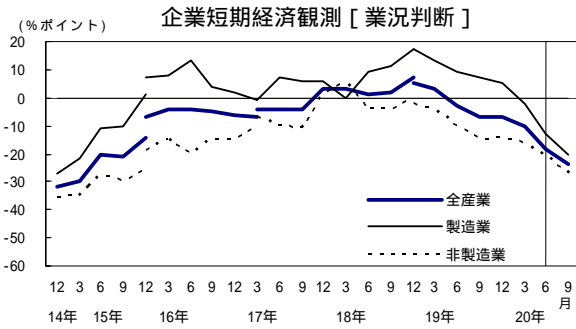
#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3月 期	4~6月 期	4~6月 期	4~6月 月期
一般機械	16.2	0.5	6.5	-	-
電子部品・デバイス	15.8	0.2	0.7	-	-
化学	14.5	0.7	3.2	-	-
金属製品	9.2	0.9	0.1	-	-
繊維	8.5	0.5	0.1	-	-
鉱工業	100.0	0.5	1.3	-	-

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

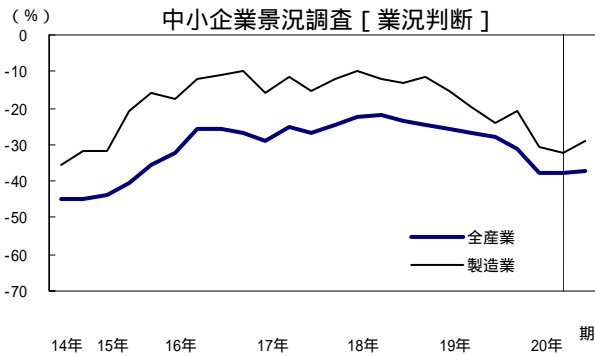


(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年9月は予測。

15年12月・17年3月および18年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月・17年3月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

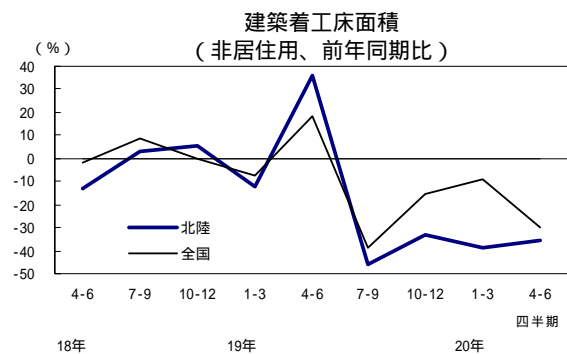
「電話機設備の更新を見送る客が多くなり、7月に入り受注量が減少している(通信業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多く見られた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	7.8( 3.9)	6.2( 4.0)
製造業	8.9( 5.6)	1.1( 2.2)
非製造業	5.5( 0.1)	23.5(10.1)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は弱含んでいる。

#### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

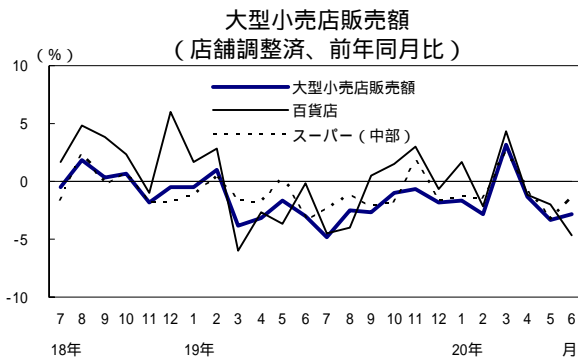
百貨店は、4月は、新入学商品は好調であったが、原油・原材料価格高騰に伴う諸物価の上昇の影響により、衣料品や高額商品が振るわず、前年を下回った。5月は、母の日やゴールデンウィークがあり前半は堅調な動きであったものの、後半は、前月に引き続き諸物価上昇により消費者に一層の生活防衛意識の高まりが見られ、衣料品を中心に全体的に振るわず、前年を下回った。6月は、食料品は堅調に推移したが、前年は6月末だった夏のクリアランスセール初日が今年は7月となったことから衣料品が前年を下回り、全体でも前年を下回った。

スーパーは、プライベート商品や単価の安い物に動きがあったものの、全体では前年を下回った。

#### 景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「来客数に大きな変化はないが、客の財布のひもは明らかに固くなっている。商品ごとに多少の温度差があり、米や冷やし中華などの生めんは売れているが、果物や菓子などの嗜好品は低調である(スーパー)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)



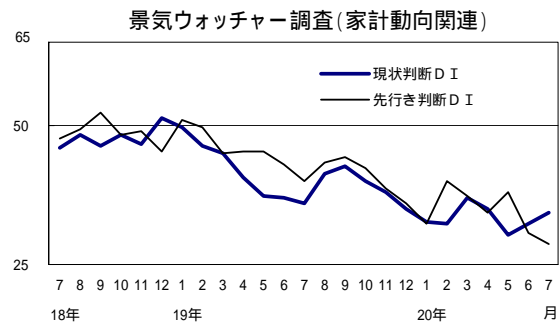
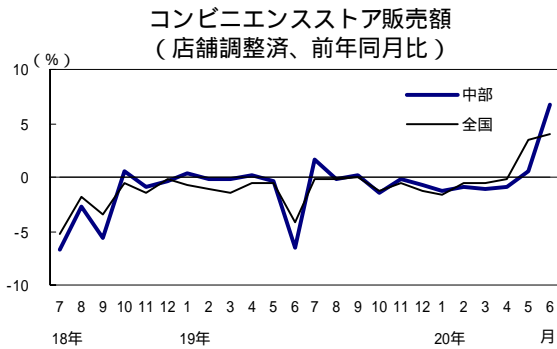
	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月
大型小売店	3.4	1.2	0.6	2.5
百貨店	2.9	1.0	1.4	2.6
スーパー	1.9	0.7	0.3	1.8
コンビニ	0.6	0.8	1.0	2.2
景気ウォッチャー	40.0	37.6	34.1	32.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店は日本銀行金沢支店調べ。

スーパー、コンビニは中部地区。

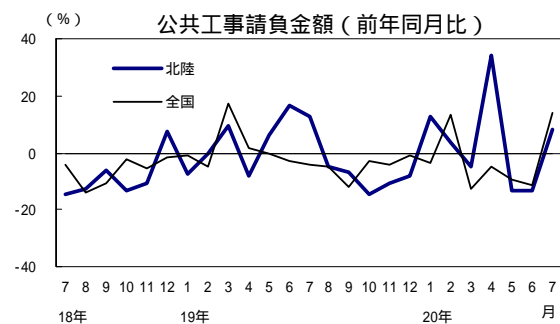
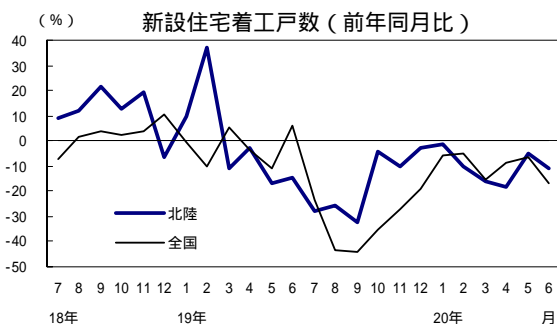
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



### (2) 住宅建設は大幅に減少している。

給与が前年を上回ったものの、持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体では大幅に減少している。

### (3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

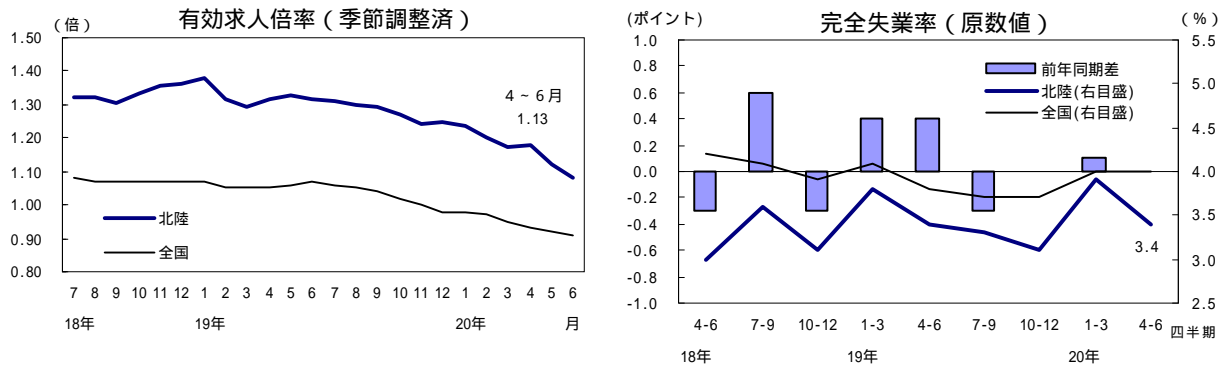


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連(現状)]

「自動車関連企業では、減産のため社外ラインスタッフの減員が進められている。次は間接部門でも減員計画があるという話を聞いている(民間職業紹介機関)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

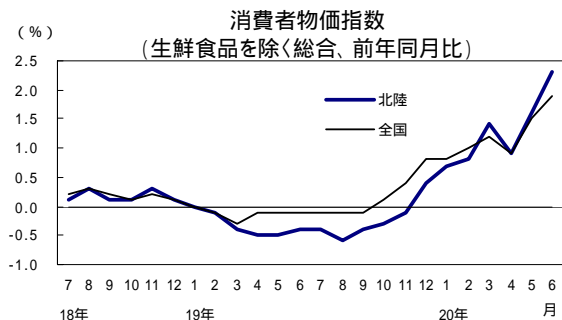
(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

7月に件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月	20年7月
倒産件数	71	90	103	92	36
(前年比)	2.7	21.6	33.8	10.7	50.0
負債総額	188	459	502	316	541
(前年比)	3.0	45.7	177.6	3.7	1477.2



景気ウォッチャー調査 (7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・客は食品の値上げにも慣れ、買物態度に落ち着きが見られる。しかし、土用の丑の日のうなぎは従来、前後の日も売れたが、今は当日しか売れない。また2、3尾買っていた客が1尾にとどめ、しかも国産品を求めている(スーパー)

<先行き>

- ・老舗の建設業倒産の影響が懸念される。また外車販売業、建設資材販売業等の取引先から“体力の限界”を耳にすることが多い(司法書士)

景気ウォッチャー調査(合計)

